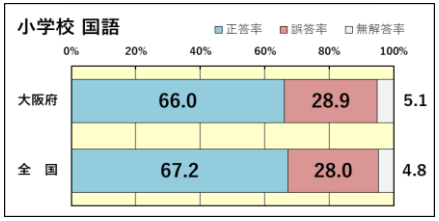
令和５年度　全国学力・学習状況調査　結果報告

・令和5年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて、英語（中学校のみ）を４年ぶりに実施している。

小学校国語

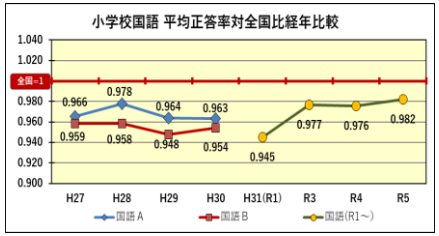
平均正答率は66.0%である。「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、学習した漢字を文章の中で正しく使うことは、概ねできている。一方、解答の条件に沿ってグラフや資料から情報を読みとって、自分の考えをまとめたり、文章を読んで分かったことをまとめたりすることに課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



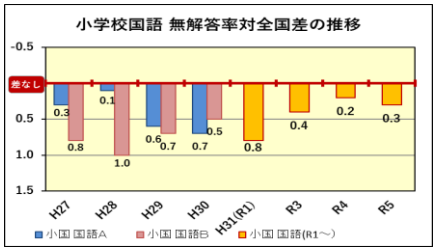
平均正答率は全国を1.2ポイント下回った

全国の平均正答率が67.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は66.0%であり、1.2ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.982ポイントだった

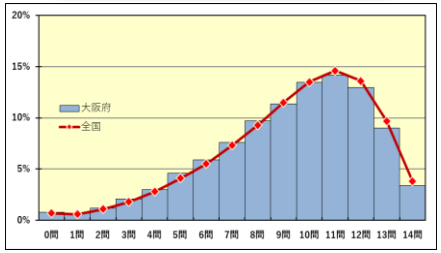
全国の平均正答率を１とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.982であった。令和4年度より0.006ポイント高くなった。平成31年度(令和元年度）に比べると、0.037ポイント高くなっていて、全国との差は縮まる傾向にある。



無解答率は全国と比べ0.3ポイント差があった

全国の無解答率が4.8%であるのに対し、大阪府の無解答率は 5.1%であり、全国より0.3ポイント高いが、平成31年度（令和元年度）に比べると0.5ポイント低くなった。

正答数分布

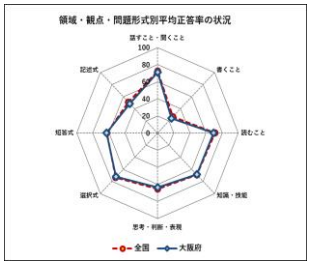


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向だった

○大阪府、全国ともに11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は０～８問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、9～10問では、全国と同等、11～14問では全国よりも低い。

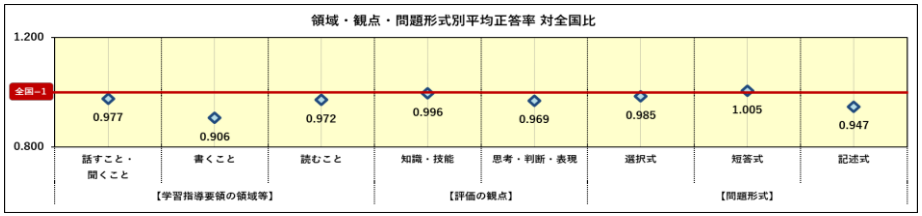
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向だった

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なっており、同傾向を示している。

○大阪府、全国とも「読むこと」及び「話すこと・聞くこと」の領域で高い値を示し、「書くこと」の領域、「記述式」で特に低い値を示している。



○対全国比では、「書くこと」「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことは概ねできている。
（相田さんが【資料３】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。2 三）

◆図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
（【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く 1 二）

◆文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。
（資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く。2 四）

◆目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。
（寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く。3 二）

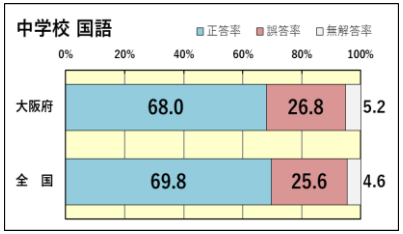
令和5年度　全国学力・学習状況調査　結果報告

・令和5年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて、英語（中学校のみ）を４年ぶりに実施している。

中学校国語

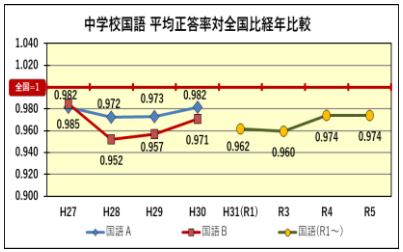
◆平均正答率は68.0%である。「言葉の特徴や使い方に関する事項」について、文脈に則して漢字を正しく書くことや、適切な語を用いることについては、概ねできている。一方、「読むこと」では、文章を比較し、表現の効果について考えたり、文章を読んで理解したことを、知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり、深めたりすることに課題が見られる。また、全体的に、条件に沿って、自分の考えを記述することに課題が見られる。これらの課題に対して、引き続き指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



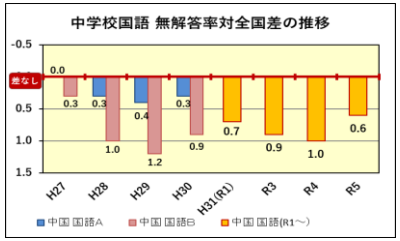
平均正答率は全国を1.8ポイント下回った

全国の平均正答率が69.8%であるのに対し、大阪府の平均正答率は68.0%であり、1.8ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.974ポイントだった

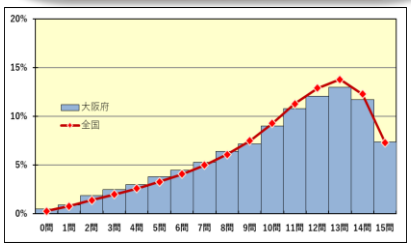
全国の平均正答率を１とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.974であった。令和4年度と比べると横ばいとなった。平成31年度（令和元年度）から見ると、0.012ポイント高くなっていて、全国との差は縮まる傾向にある。



無解答率は全国と比べ０.６ポイント差があった

全国の無解答率が4.6%であるのに対し、大阪府の無解答率は５.2%であり、全国より0.6ポイント高かった。平成31年度（令和元年度）から無解答率の全国との差は、増加傾向にあったが、減少に転じた。

正答数分布

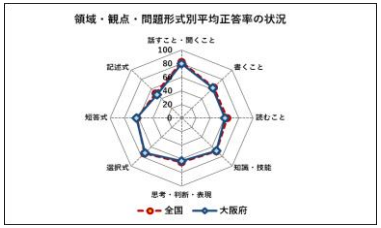


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向だった

○大阪府、全国ともに13問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は０～８問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、９～14問では全国よりも低く、15問は全国と同等だった。

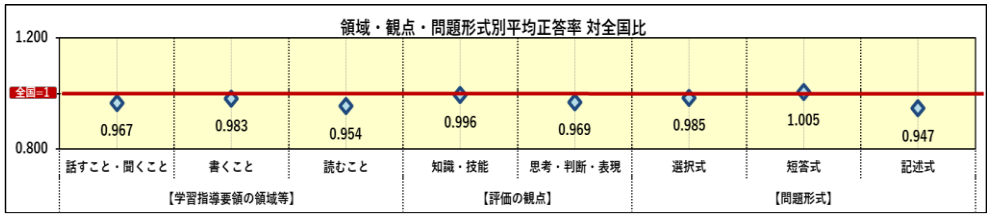
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向だった

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なっており、同傾向を示している。

○大阪府、全国とも「話すこと・聞くこと」で高い値を示し、「読むこと」の領域、「記述式」で、低い値を示している。



○対全国比では、「思考・判断・表現」「記述式」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

◇事象や行為、心情を表す語句について理解することはできている。
（「落胆する」意味として適切なものを選択する。 2 一）

◇文脈に即して漢字を正しく書くことは概ねできている。
（「漢字を書く。（おし量って）」 3 二）

◆聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることに課題がある。
（インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。1 四）

◆文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。
（自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く。 2 四）

◆文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることに課題がある。
（現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く。 4 三）

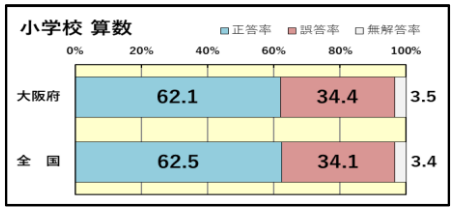
令和５年度　全国学力・学習状況調査　結果報告

・令和５年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて英語（中学校のみ）を４年ぶりに実施している。

小学校算数

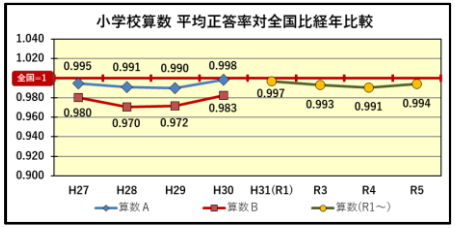
平均正答率は62.1%である。伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取ることははできている。一方で、「複数の棒グラフからデータの特徴を捉え、違いを見いだすこと」や、「高さが具体的に示されていない複数の三角形について、それらの面積の大小を判断するのに必要な情報を見いだしその理由を説明すること」などの課題に対する指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



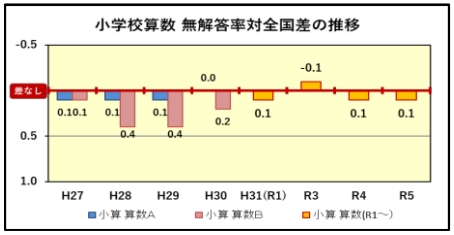
平均正答率は全国を0.4ポイント下回った

全国の平均正答率が62.5%であるのに対し、大阪府の平均正答率は62.1%であり、0.4ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.994ポイントだった

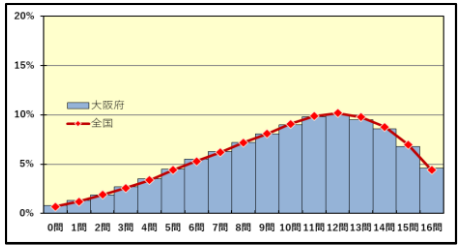
全国の平均正答率を１とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.994であった。令和４年度と比べると、0.003ポイント高くなった。



無解答率は全国と比べ0.1ポイント差があった

全国の無解答率が3.4%であるのに対し、大阪府の無解答率は 3.5%であり、全国より0.1ポイント高かった。

正答数分布

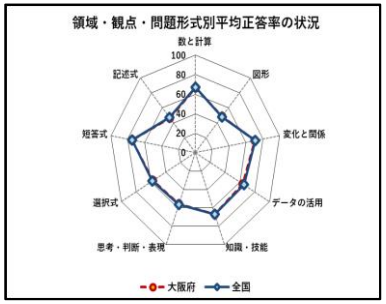


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向だった

○大阪府・全国ともに12問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は２問・８問・９問では、全国と正答数分布の割合が等しく、０問・１問・３～７問・16問では、全国よりも高かった。また、10～15問では、全国よりも低かった。

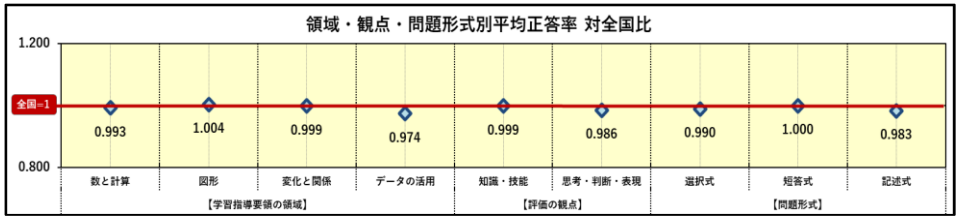
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向だった

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なっており、同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「変化と関係」・「短答式」でやや高く、「図形」で低い値を示している。



○対全国比では、「データの活用」・「思考・判断・表現」・「記述式」でやや低い値を示している。

具体的な児童の状況等

◇伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることはできている。
（５脚の椅子を重ねた時の高さを求める。 1 （１））

◇一の位が０の二つの２位数について、乗法の計算をすることはできている。
（全部の椅子の数を求めるために、50×40を計算する。 1 （４））

◇正方形の意味や性質について理解することはできている。
（テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。 2 （２））

◆高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
（テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。 2 （４））

◆百分率で表された割合について理解することに課題がある。
（示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。 4 （１））

◆示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することに課題がある。
（二つのグラフから、３０分以上の運動をした日数が「１日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。 4 （３））

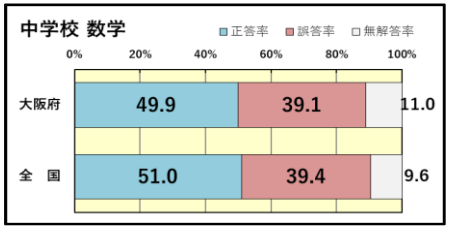
令和５年度　全国学力・学習状況調査　結果報告

・令和5年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて、英語（中学校のみ）を４年ぶりに実施している。

中学校数学

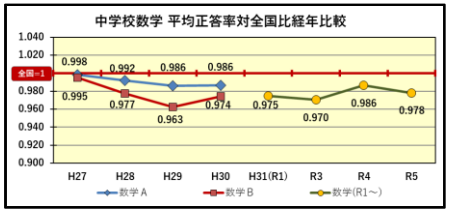
平均正答率は49.9%である。数と整式の乗法の計算や、問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。一方で、「特定の図形において成り立つ事柄」、「関数を活用して問題解決する方法」、「データの分布から考えられることやそう判断した理由」について、数学的な表現を用いて説明することに引き続き課題が見られ、更なる指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



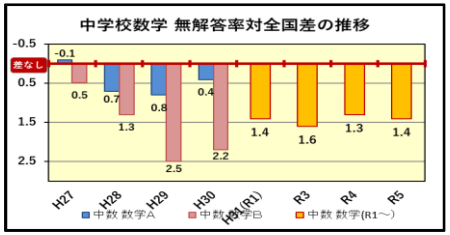
平均正答率は全国を1.1ポイント下回った

全国の平均正答率が51.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は49.9%であり、1.1ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.978ポイントだった

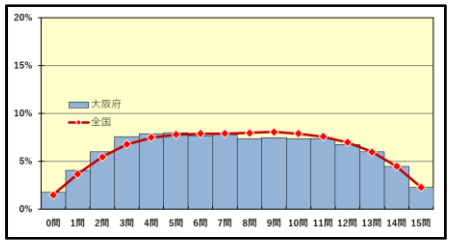
全国の平均正答率を１とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.978であった。令和４年度と比べると、0.008ポイント低くなった。



無解答率は全国と比べ1.4ポイント差があった

全国の無解答率が9.6%であるのに対し、大阪府の無解答率は 11.0%であり、全国より1.4ポイント高いが、令和４年度と比べると、0.1ポイント低くなった。

正答数分布

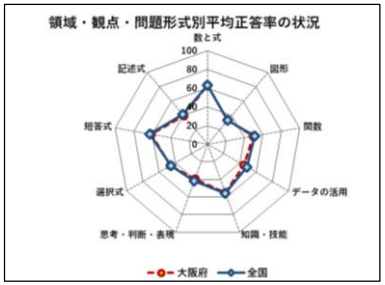


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向だった

○大阪府は３問～７問、全国は４問～11問を頂上として、頂上が平たくなった高原状の分布となっている。

○大阪府は13問～15問では全国と正答分布の割合が等しく、０～５問では全国よりも正答数分布の割合が高かった。また、６～12問では全国よりも低かった。

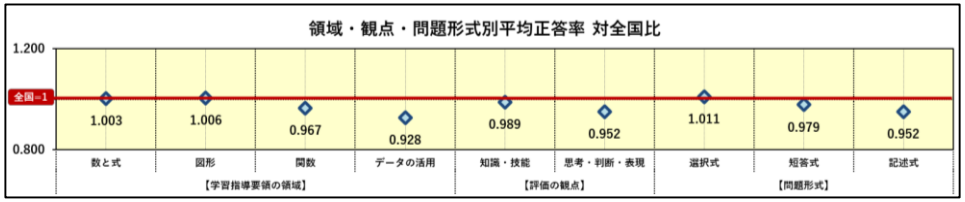
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向だった

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なっており、同傾向を示しているが、「データの活用」領域では、やや低い値を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「数と式」「知識・技能」「短答式」でやや高く、「図形」「データの活用」「記述式」「思考・判断・表現」でやや低い値を示している。



○対全国比では、「変化と関係」「データの活用」「思考・判断・表現」「短答式」「記述式」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

◇数と整式の乗法の計算はできている。$\left(12\left(\frac{x}{4}+\frac{y}{6}\right)\ \boxed{2}\right)$

◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。（はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が２、たす数が３のときの計算結果を求める。$\boxed{6}$（１））

◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて表現することに課題がある。（データの分布から読み取れることを主張する理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する。$\boxed{7}$（２））

◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。（グラフや式を用いて、ある選手が他の選手に追いつくのが、６区のスタート地点からおよそ何mになるのかを求める方法を説明する。$\boxed{8}$（３））

◆ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。（２つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯覚が等しいことを示すことで証明する。$\boxed{9}$（１））

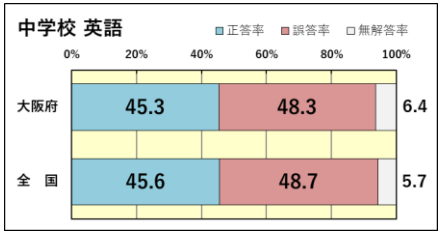
令和５年度　全国学力・学習状況調査　結果報告

・令和5年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて、英語（中学校のみ）を４年ぶりに実施している。

中学校英語

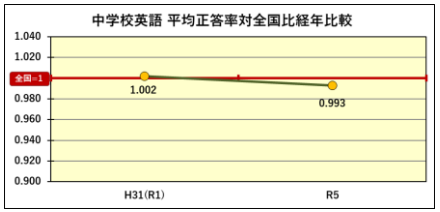
平均正答率は45.3%である。短い情報を正確に聞き取ることや、目的や場面、状況等に応じて必要な情報を聞き取ることは概ねできている。一方、 まとまりのある内容の英文を読んで必要な情報を読み取ったり、概要を捉えたりすることに課題がある。また、社会的な話題に関する英文を読んだ上で、自分の考えやその理由を書いたり、文法事項や言語の働きを理解して正確に書いたりすることにも課題がある。これらの課題に対して更なる指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



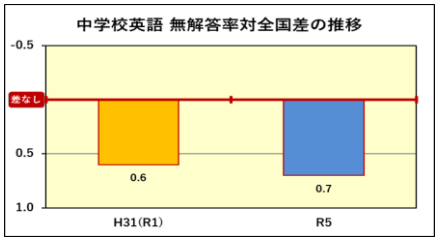
平均正答率は全国を0.3ポイント下回った

全国の平均正答率が45.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は45.3%であり、0.3ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.993ポイントだった

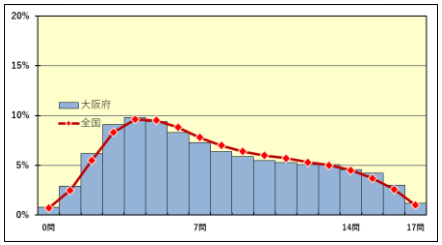
全国の平均正答率を１とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.993であった。平成31年度(令和元年度）に比べると、0.009ポイント低くなった。



無解答率は全国と比べ0.7ポイント上回った

全国の無解答率が5.7%であるのに対し、大阪府の無解答率は６.4%であり、全国より0.7ポイント高かった。また、平成31年度（令和元年度）より0.1ポイント高くなった。

正答数分布

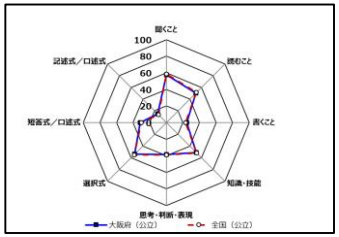


正答数分布の様子は全国の状況と同傾向だった

○大阪府、全国ともに４問を頂点とした左寄りの山型を描いている。

○大阪府は０～４問、及び13～17問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、５～12問では全国よりも低かった。

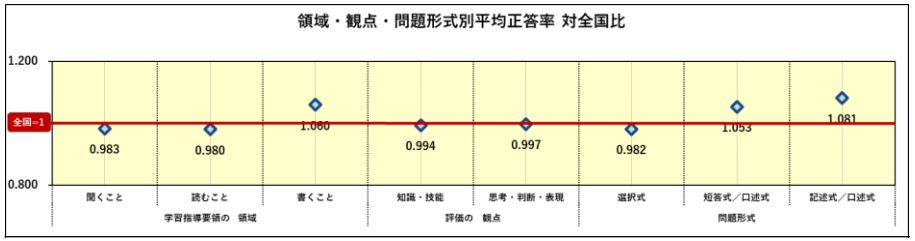
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は全国と同傾向だった

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なっており、同傾向を示している。

○大阪府、全国とも正答率は「聞くこと」の領域で高い値を示し、「書くこと」の領域、「記述式」で特に低い値を示している。



○正答率の対全国比では、「書くこと」「短答式」「記述式」で高い値を示している。

具体的な生徒の状況等

◇短い情報を正確に聞き取ることは概ねできている。（ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する。1（１））

◇日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることは概ねできている。（忘れ物に関する情報を得るために、自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する。2）

◆日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることに課題がある。（友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する。6）

◆日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることに課題がある。（図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する。7（２））

◆社会的な話題に関する英文等を読んだ上で、自分の考えやその理由を書くことに課題がある。（ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く。8（２））